

水

中津市長 奥塚 正典

中津市は、山、川、海の自然に恵まれています。いずれもそこには水があり、市民生活を経済、環境、景観など様々な面で支えています。山国川は源流英彦山から河口まで 56 km、支流の水系を合わせさらに豊かな水となり豊前海に注ぎます。そして山・川・海には多くの生き物が生息し、その一部は人間の生存を支える大切な食料源となっています。

山国川水系の耶馬溪ダムの水の一部は北九州市に導水管で送られ飲料水として活用されています。この水系の恵みに感謝し、「耶馬の森林」植樹の集いがダム湖畔で毎年開催され、福岡県からも多くの方が参加し植樹を行うとともに地元の方と交流します。また、ダム湖は水上スポーツのメッカとして活用され愛好者が集います。言うまでもなく米作りをはじめ農業や工業などあらゆる産業に水は不可欠です。昔から水のない日常生活は考えられません。

このように水は人間の生活に欠かせず多くの便益をもたらす一方、自然災害と言う形で人間に大きな脅威を与え人命を奪うまでに大被害を及ぼすこともあります。多発する豪雨災害は全国各地で猛威を振るいました。東日本大震災の津波も毎年日本を襲う台風雨もしかりです。恐怖へと豹変する水から人命を守らねばなりません。

ここ数年の気象を見ると、「記録的短時間大雨情報」の発表がしばしば、大豪雨が来ませんようにと毎年祈りにも似た気持ちになります。市は今年度中に山国川沿いやため池の 24 箇所に監視カメラを増設しますが、「危ない時は危ない所からまず逃げる」が鉄則です。



山国川の清流

「水がもたらす恵みに感謝しつつ水の脅威に備え水から逃げる。水を生み出す豊かな自然に畏敬の念を持ち水を大切にする」。梅雨期を前に、おいしい中津産の自然飲料水ボトル「青の洞門」を手に、改めて気を引き締めました。